由利本荘市立由利中学校 校報　　「チーム由利中　心ひとつに」

根堀台だより

平成29年8月24日

第 44 号

校 訓「 進 歩（文 ）」「 健 康（武 ）」「 協 力（道 ）」

夏休みが終了
前期最後の追い込みを

駅伝大会での激走

菊地工業での職場体験

約１ヶ月間の「夏季休業」が終わり、今日から学校が始まりました。朝の登校の様子から、どの子どもも日に焼けて、少し体が大きくなり、「逞しさ」が感じられました。

「夏季休業中」も色々な場面で由利中生の活躍を目にすることができました。吹奏楽部の全県大会出場は２年生の職場体験と重なり、夕方からの練習となりましたが、みんなよく頑張り、８月１日は最高の演奏を聴かせてくれました。

また、駅伝部は朝練習を行い「本荘由利駅伝大会」に備えましたが、８月１７日の本番では男女ともに１０位と、昨年よりもいい成績をあげることができました。

「由利本荘市青少年ハンガリー友好交流訪問団」の一員として参加した２年生の〇〇〇〇さんは、滞在中連日４０度を超す記録的な猛暑だったそうですが、体調を崩すことなく有意義な体験をすることができました。

さらに、職場体験活動「なりたい自分を目指す１４歳の挑戦！」では、２年生が各々の職場で汗を流しました。職場の皆さんから励まされたり、甘えを厳しく指導されたりしながら過ごした５日間の体験は、大人の社会を学ぶだけでなく、自分自身を振り返る機会となったと思います。何よりも毎日自分たちのために働いている家族の皆さんに対する感謝の気持ちを是非もってほしいと願っています。

夏季休業中、ニュースなどでは日本各地での記録的な大雨などの自然災害や大きな事故が報道されていましたが、当地におきましてはお陰様で大きな事故や怪我などもなく、由利中生全員が健康で有意義な日々を過ごすことができました。

今日から学校が始まりましたが、１０月６日の「前期終業式」まで４４日となります。この短い期間の中には、前期期末テストや秋季大会、そして定期演奏会や由利中祭などの学校行事など、為すべきことが沢山あります。この多忙な日々を乗り越えるには、常に先を見据えながら、計画的に取り組むことが大切です。

３年生はこれから自己の進路の実現を目指し、２年生は由利中学校の原動力であるという自覚をもち、１年生は何事にも中学生らしさを意識して日々の生活を過ごすことが望まれます。これからの「前期最後の追い込み」に期待しています。

休み明け集会でのお話

昔々、あるところに、小さな村がありました。この村は、獰猛な怪物に悩まされていました。村と外の世界を結ぶたった一つの道を怪物がとおせんぼしていたのです。勇敢な騎士たちが怪物を退治しようとしましたが、ことごとく失敗に終わりました。怪物は不思議な力を持っていて、どんなに強力な武器で挑んでもその二倍以上の力で対抗してきます。

最初の騎士は木の棍棒を振り回して襲い掛かりましたが、 二倍の大きさの棍棒で叩きのめされました。

二番目の騎士は熱い炎で焼き殺そうとしましたが、二倍の熱さの炎を吹きかけられて、焼け焦げて炭になりました。

三番目の騎士は鋼の剣を振りかざして挑みましたが、長さが二倍で切れ味も二倍の剣で真っ二つにされました。

三人の騎士の姿を見て、村人たちは怪物と闘うことを辞め、不自由な暮らしを辛抱するようになりました。

（さて、君たちならどうやって怪物と戦いますか？）

ある日、村一番の馬鹿者のジャックが言いました。「怪物を退治する方法がある。」ほとんどの村人は、馬鹿にして笑いました。それでも、好奇心旺盛な人たちと勇敢な人たちが怪物退治に同行しました。ジャックは食べ物と水を持って、怪物のいる場所に行きました。すると、怪物がうなり声を上げ、脅すように伸びあがり、睨みつけてきました。するとジャックはリンゴを一個手に取り怪物に近づいていきます。遠まきに見ていた村人たちは息を飲みました。「お腹、すいてないかい？」ジャックが声をかけると、怪物は目をつむるようにして、リンゴのにおいをかぎました。怪物の巨大な口が上下に開いた瞬間、野次馬の女性の一人が気を失いました。怪物はジャックの震える手からそっとリンゴを取り、口に放り込みました。そして、片手を上に大きく振り上げ、目を丸くして見ている村人たちの前の地面に、握り拳を叩きつけました。

「バン！」

怪物が手を開くと、そこにリンゴが二つありました。さっき食べたものより、真っ赤でみずみずしいリンゴでした。

さらに怪物は、素焼きの壺になみなみと注がれた水を飲み干したあと、もっと澄んでいておいしい水がなみなみと注がれた黄金の壺を二つ出現させました。この奇跡をみんなに知らせようと、野次馬たちは村に走って戻りました。村中の人たちがやってくると、ジャックが怪物にニッコリ笑ってみせ、怪物もジャックに微笑みを返しました。その温かい微笑みを見て、どんなに疑り深い村人も納得しました。怪物は村の災いではなく、村の恵みになったのです。

これはアーロン・パイパーという作家の書いた「倍返しの怪物」という寓話です。７月末に皆さんに「生徒アンケート」を行いました。その結果から、今日は皆さんにこれから頑張ってほしいことをお願いします。

一つ目は「授業中に自分から進んで発表すること」です。この項目は毎年一番数値が低く、本校生徒の一番の課題です。少し勇気がいるけれど、まず最初に口火を切って発表してみましょう。「一歩前に進むこと」です。必ず「倍返し」で感想や意見が返ってくるはずです。今日も沢山の人たちが「生徒発表」に応えてくれました。一生懸命考えた発表には、一生懸命考えた発表が帰ってくるはずです。

二つ目は「学校は楽しい」「学校は安心できる」という項目です。９割前後肯定的に捉えており、決して低い数値ではありません。でも、私はこの項目が１００％であること、つまり全ての生徒にとって、「学校は安全で安心できる楽しい場所」でなければならないと思います。「おはようございます」と心を込めてあいさつをすれば、「おはようございます」と心のこもったあいさつが返ってきます。でも、無視すれば無視されるし、にらみつければにらみ返されます。他人はまるでこちらの行動を映す鏡のようなものです。

「倍返しの怪物」は「ミラー効果」、あるいは「鏡の法則」と言います。「他人は自分の鏡」です。自分の周りの人を見れば、自分がこれまで人に何をしてきたかが、まるで鏡を見るかのようによくわかります。人が笑いかけてくれないのは、自分が笑いかけていないからかもしれません。人が話を聞いてくれないのは、自分が人の話を聞いていないからかもしれません。人が助けてくれないのは、自分が人を助けていないからかもしれません。大切なことは、自分から周りに対してプラスの発信を続けていくことです。やはり「一歩前に進むこと」です。そうすれば、必ず周りからプラスのものが返ってきます。そういう気持ちでみんなが接していければ必ず１００％「学校は安全で安心できる楽しい場所」になれると思います。皆さん頑張っていきましょう。

でも、この「鏡の法則」には、注意すべき点が２つあります。

１つは、「恋愛には使えない」ということです。人を好きになっても、必ず好きになってもらえるとは限りませんので、くれぐれも注意してください。もう１つの注意点は、あまり効果を期待しないことです。見返りを求めると、見返りを求められるからです。

今日から学校が始まりましたが、前期も残すところ１ヶ月余りとなりました。「なりたい自分」という夢の扉を開ける鍵は、いつでも君たち自身の手の中にあります。その鍵は「一歩前に進むこと」です。

今日からまたみんなで一歩ずつ前に進んでいきましょう。